

がーん

「そ、そんな！？
山倉常務！
夫が会社のお金の
使い込みだなんて！」

「そうは言っても
本当だから仕方ないね
会社のお金で得意先へ
裏から便宜を図っていた
ようだね」

この爆乳美人妻の名前は理沙。
平日の昼間にいきなり夫の上司である
山倉常務が訪れていた。
そう理沙が一人なのを狙ってだ。

くっ

夫は平凡な会社員であったが、
最近はずいぶん出世街道まっしぐらだった。
それにはこんな裏工作があったのだと
理沙は絶句する。

「何なら本人へ電話をして
確認してみますか？
あの仕事を家庭に持ち込まない
プライドの高い男だ……
あなたに不正がバレたと知ったら
自殺しちゃうかもね」

「ゴクリ……
そうかもしれない……
私はどうすれば？」

「ふふふっ！
簡単ですよ！
私が社内であまく処理して
あげますので……
さあ、脱ぎなさい。」

「ビッ！」

ここからは音声も交えて
お楽しみ下さいませ。

プルッ

モグ

ゴクリ

「ええっ? き、綺麗って?
そ、そんな事を言っても
私は抱かれたりなんか……
ああー下はダメえ!
下着すらさないでえ!
常務さん本当に
ダメですってえ!」

「いやああ!
警察を呼びますよ!
触らないで下さい!
脱がさないでえ!
ああああ!
胸が見えちゃう!
はああん!
そんなに乳首を
引っ張らないでえ!」

ふんふん
ふんふん
ふんふん

ふん

ふん

ふん

「こ、怖いっ！
すごい顔になってる！
滅茶苦茶興奮してるわ！
誰か助けてえー！」

..んーんー

「で、でもダメだわ！
今誰か来たら主人の
不正のために
襲われてるのが
バレちゃう！
どうしよう？
や、やだあ！
股広げちゃいやああ！
全部見えちゃうでしょ！」

くははは
♡

「エエッ？
ぬ、濡れてないわ！
こ、これはただの汗よお！」

「なんて強引な人なの！
どうか中に入れるのだけは
許して下さい！
他の事なら何でもしますから！
ああん！
容赦なく入れちゃうなんてえ！
なんて男なお！
やだやだやだあ！
奥まで入れないでえ！はあん！
子宮まで届いちやつてるのお！
ダメだつてえええ！」

「くうう！
わ、私を感じてるですって？
そ、そ、そんなわけないわ！
あなたなんか感じてなんて……」

あはあ♡

むゅ むゅ

かじっ

くっすくっ

びくっ

アッ♡
くっ

あーっ



「うう、ぐすん……
常務の精液が膣から垂れてきてる……
寝取られちゃった……
あなた……ほ、本当にごめんなさい……
でもあなたとの暮らしを守るため
ですもの……
私……耐えてみせます……
う、うう……」

（しかし私は山倉常務に
騙されていたのです。

夫は会社のお金の使い込みなど
行っていました。

全ては急な出世をしていた夫を
陥れるための策略だったのです。

私の淫らな声は全て録音され、

こうしてあなた達に聞かれています
のですから……山倉常務……許さない！

これを聞いているあなた達も決して
許さないんだからあー！

FIN